



PHILLOMUSICA

'97 3/16 (日)

京都フィロムジカ管弦楽団

第2回定期演奏会

御挨拶

本日ここに「京都フィロムジカ管弦楽団」第2回定期演奏会を開催するにあたり、ご多忙中にも拘わりませず、多数の方々のご来場をいただきまして誠にありがとうございます。昨年の記念すべき第1回演奏会では、団員の一体となった若い力溢れる演奏に胸を熱くいたしました。さらに今回は、指揮者に蔵野雅彦先生をお迎えし、先生のご指導のもと、ますます努力と研鑽を重ねて今日の演奏会の日を迎えました。どうぞ本日も団員の皆さんが気持ちを“ひとつ”にして、日頃の練習の成果を精一杯、伸び伸びと表現してくれるものと期待いたしております。

最後になりましたが、京都フィロムジカ管弦楽団の為に、物心両面にわたるご支援を賜りました皆様方をはじめ、ご指導下さいました先生方に厚く御礼申し上げますと共に、定期演奏会のますますの発展を祈りまして、ご挨拶とさせていただきます。

京都フィロムジカ管弦楽団顧問 和田 之宏

本日はお忙しい中、京都フィロムジカ管弦楽団第二回定期演奏会にご来場くださり本当にありがとうございます。私達フィロムジカは創団一年に充ちたず第二回目の演奏会を迎えることができましたが、いつも思うことは同じです。初心を忘れてはいけない、原点に立ち戻らねば、ということです。オーケストラも人間の集合体としての生き物ですから、自分たちが生きていくように生かしていかねばなりませんよね。無意識に忘れていくということがないように。最後になりましたが、最高の御指導助言、そして音楽の楽しさを教えてくださった蔵野先生、藤井先生、各トレーナーの先生方、そして高瀬博章さん、並びに関係者の方々から感謝申し上げます。

京都フィロムジカ管弦楽団代表 小林 香

安達消化器科内科医院

京都市左京区下鴨東本町 DEMI-RAKUHOKU
☎(075) 712-5558

京都フィロムジカ管弦楽団

Kyoto Philomusica Orchestra

第2回定期演奏会

97年3月16日(日)午後2時開演

京都府長岡京記念文化会館

PROGRAM

芥川也寸志作曲：「交響管弦楽のための音楽」

Akutagawa Yasushi : "Musica per Orchestra Sinfonica"

I. Andantino – Meno mosso environ – Andantino

II. Allegro environ

ロドリゴ作曲：「アランフェス協奏曲」

Joaquín Rodrigo : "Concierto de Aranjuez"

I. Allegro con spirito

II. Adagio

III. Allegro gentile

ギター独奏：藤井 敬吾

—休憩—

ブラームス作曲：「交響曲第2番」ニ長調 作品73

Johannes Brahms : "Sinfonie Nr.2" Ddur Op.73

I. Allegro non troppo

II. Adagio non troppo

III. Allegretto grazioso

IV. Allegro con spirito

指揮：藏野 雅彦

「本日の曲の音の色について」

まだ正月気分がぬけきらない季節にこれを書いている。フィロムジカとのリハーサルも昨年暮れに始まったばかり。一体どんな音楽が育っていくのか想像もつかない。書いた文章にがんじがらめにされるのはいやだし、ひとつここは私が今現在思い描いている音のイメージについて書いて、果たしてそのとおりの演奏となるか、大きく変化するかそれは当日のお楽しみということにしたい。

選曲についての私の希望は二点、「協奏曲」と「現代日本の音楽」をやりたいということだった。ブラームスは既に決まっていたし、そういった意味で三曲は関連性に乏しい。しかし「音の色」という観点から見ると、三曲とも実に魅力的な「色」を持っている。

まず一曲目は、シルクロードの響き。アジア風ペーソスと、ショスタコーヴィチやプロコフィエフといった旧ソ連の巨匠に影響を受け、世界に飛躍しようとする若い作曲家の金色の輝き、そしてそれとは逆にぎらぎらとした脂の色が混在している。

二曲は藤井敬吾氏という素晴らしいソリストと共演できること、それは東洋の顔を持った無国籍人との邂逅（かいこう：思いがけなく出会うこと）を意味し、彼の中にすでに流れるラテンの血に、その赤色に触れるということである。スペインの空気は僕の中でヘミングウェイとオーヴァーラップする。そこに藤井さんの原色を加えて、何かとてつもない造形を試みたい。

ブラームスの二長調は「憧れ色」。これが心を優しく包む。ハンブルクの低くたれ込めた厚い雲の下から遥か彼方の南の空に憧れ、第一番八短調からは想像もつかないような（否、ひょっとすると、第一番で内包されていた種が花開くだけかも・・・）爽やかで際立った明るさがここにある。ブラームスを指揮する度に、作品の本質からどんどん離れていくような、うまうまと落とし穴にはまった私を、天国のブラームスがシニカルな笑顔で見下ろしているような気持ちに必ずなる。分かっているのだが、現に今も第二楽章の解釈ではかなり危険な方向に傾いている。その意味は・・・・あ、これ以上文章にするのは危険だ。

指揮者 蔵野 雅彦

A m o u r

F l u t e

E n s e m b l e

o r g a n i s a t e u r : J u n p e i M a s a o k a

客演指揮者及び独奏者紹介

客演指揮

藏野 雅彦



京都市立堀川高校音楽科を経て1979年東京芸術大学音楽学部卒業。在学中よりトランペット奏者として活躍。

1987年堀川高校音楽科オーケストラの指揮、指導を開始。

1992年京都市の親善大使としてキエフ市を訪れたときの演奏が高く評価され、単独で招待を受け、ウクライナ・ナショナル交響楽団の定期演奏会でマーラーの交響曲第1番ほかを客演。1993年ロシア、マリ・エル国立歌劇場より招待を受け、ヴェルディの「椿姫」を、歌劇場管弦楽団ではラフマニノフの交響曲第2番ほかを指揮。同年、キエフ国立シェフチェンコ歌劇場管弦楽団より招待を受け、チャイコフスキーの交響曲第6番「悲愴」ほかを指揮し、その公演はウクライナ国中に放送され絶賛を博す。1996年にはウクライナ国立フィルハーモニーに客演。

現在までに、京都市交響楽団、大阪市音楽団をはじめ多くのオーケストラに客演する。

ギター独奏

藤井 敬吾



1956年、北海道に生まれる。7歳よりギターを始め20歳の時のギター音楽大賞で第1位となる。イギリスのギルド・ホール音楽院とスペインのオスカル・エスプフ音楽院に学ぶ。

1985年、「ラミレス・コンクール」と「オレンセ国際コンクール」にて連続して第1位となり話題となる。1996年、青山音楽財団より「青山音楽賞」を授与される。また、7月にシュベル・ゾーバ・レーベルより発売されたCD「グラナダの花」がレコード芸術誌で特選に選ばれた。演奏、作曲、教授と幅広い活動をしている。

王子ヶ岳ギター講習会講師、大阪音楽大学非常勤講師。

練習指揮者及びトレーナー紹介

練習指揮者

田村 陽一

1963年生まれ（東京）。兵庫県立西宮高等学校在学中、ブラスバンド部でコントラバスを担当。大阪音楽大学音楽学部声楽専攻を卒業後、声楽家として、オペラ、コンサート、学校公演等で活動していたが、1994年指揮に転向、研鑽を積み現在に至る。

声楽を浜渦章盛、樋本栄、指揮を松岡究、和声を中村典子に師事、オホーツク音楽セミナーにて小林研一郎の指導を受ける。（以上敬称略）

昨年「題名のない音楽会」の指揮法セミナーの番組で生徒役で東京交響楽団を指揮。ダスキンのコーラス指揮者を経て大阪音楽大学・ザ・カレッジ・オペラハウスで三木稔のオペラ「よみがえる」で飯盛範親氏の下で副指揮をつとめた。

現在、同オペラハウスにて、合唱、オペラの副指揮、千里市民管弦楽団の副指揮者として研鑽を積む。

弦トレーナー

田畑 佳子

ヴァイオリン奏者、

福岡女学院高等学校音楽科卒業、

現在、京都市立芸術大学音楽学部四回生。

弦トレーナー

西口 勝

京都市立芸術大学卒業、

西出昌弘、G・クラウスの各氏に師事、

現在、京都市交響楽団コントラバス奏者。

金管トレーナー

植村 光雄

トロンボーン奏者、

大阪音楽大学卒業、

大阪トロンボーン・アンサンブルメンバー、ガブリエリ・ブラスコンソートメンバー等、オーケストラ、室内楽で活躍。

Fur & Leather
SWEAVE
スウィーヴ

京都市南区唐橋平垣町20-1
TEL (075)691-2180
FAX (075)672-4369

「音楽を愛しましょう」

高嶋友子

音楽というものは奥が深いもので、追求すればする程広がりを増すものである。わたしは、ただ“好き”という1点に留まりたくなく、音楽の道へ進むことを決めたが、やはり忘れてはいけないのが、理屈抜きに、純粹に音楽を愛する気持ちを持つことであると思う。“好き”という壁を越え、専門的な世界に入ると見えてくるのは疑問ばかり。なぜこの音楽を良いと感じるのか、この作品の背景には何があるのか……。また、美しいと感じる音楽に対してただ美しいと思うだけでは物足りない気持ち、“美しい”としか表現できない自分の語彙数の乏しさを実感したり……。いつしか私は、音楽を楽しむ余裕を失っていた。そんなとき、ドイツとオーストリアを訪れる機会に恵まれた。そこで感じたのは、芸術と街が一体化していること、その中で人々は本当に人間らしく暮らしていること。そこには音楽と共に幸せな時が流れていた。その時、私は思った。疑問を持って、それについて追求することも大切であるが、それよりも、音楽に接する機会を増やし、感じる心を育てることが大切なのではないか……。と。

音楽の良さを言葉にする必要はない、私はそう思う。まだ話すことのできない赤ん坊は言葉では表現できないものの、音楽を感じる心はある訳であるし、毎日の生活の中で、特に深く考えることなく B.G.M.として音楽を活用している人もいることだろう。“なぜだかわからないけれどもこの音楽を良いと感じる”“この曲を聴くとなぜかリラックスできる”この様に、言葉を用いなくても、純粹に感動したり、共感することのできるという、そこに、魅力があるのではないだろうか。よく言われることであるが、音楽とは音を楽しむものである。“音が苦”にならない様、音楽を心の栄養素として、自分の生活と上手く調和させてほしいと思う。いつの日か、日本でも音楽を生活の一部として、自然に取り入れられる日がくることを願っている。

“音楽を純粹に愛しましょう。少し間違ったこの世の中、息が詰まる思いをしている人も多いことでしょう。そんなとき、音楽を聴いてみて下さい。曲は何でもいいのです。CDで物足りなくなったら、生の演奏会へ出かけてみましょう。気取る必要はありません。音楽は、純粹に愛してくれる、そんなあなたを待っていますよ。”

京都フィロムジカ管弦楽団 音楽理論担当
同志社女子大学音楽学部学生

都ホテル・新都ホテル専属

岐陽館

小林祐史写場

(駐車場有)

〒604 京都市中京区寺町通丸太町下ル
電話 (075) 231-1471
FAX (075) 231-1471

曲目紹介

芥川也寸志 作曲

「交響管弦楽のための音楽」

リズム。これこそ芥川が「音楽の生命」とまで呼んで重視したものである。この曲には歯切れの良いリズムの魅力が満ちみちている。一見すると平易な音形の繰り返しのように見える中に、さりげなく変拍子やシンコペーションが用いられ、これらが微妙に変化し続ける音色と相まって隠し味のように音楽に生き生きとした生命力を与える。芥川也寸志（1925～89）25歳の作品であるこの曲は、激しすぎるとも思われるほどの若々しい推進力も印象的だが、後年の芥川の特徴である、しなやかな音色や郷愁に満ちた旋律、慄然とさせられるような響きもすでに随所に見られる。紛れもなく芥川の代表作の一つであるこの曲は、聴衆のみならず演奏者にまでも喜びを与えてくれるという点でも、偉大な教育者としての後年の芥川の片鱗を見せていると言えよう。

遠藤 啓輔 (Tp.)

ロドリーゴ 作曲

「アランフェス協奏曲」

ロドリーゴは1901年に東スペインの海岸街サグンドに生まれました。3歳の時に悪性のジフテリアを患い、視力をほとんど失ったのですが、努力とビクトリア夫人の献身的な助力により、スペイン楽壇の頂点に登りつめました。1938年にギタリストであるレヒーノ・サインス・ラ・マーサとボラルケ侯爵は、ロドリーゴにギター協奏曲の作曲を勧めました。ギターはオーケストラと比べると音量が非常に小さいので、ギターを独奏楽器として用いることには困難を伴いました。（今回の演奏会でも問題になりました。）しかし、ロドリーゴは39年にはこの作品を完成させ、40年にデ・ラ・マーサによってバルセロナで初演され、古典派以来途絶えていたギター協奏曲が復活したのです。この曲はマドリードの南約50キロにある緑豊かな都市アランフェスに着想を得た曲で、内戦に疲れた人々の心を打ってスペイン全土に広まり、そして世界中に知られるようになりました。曲は3つの楽章からなっています。特に、2楽章のアダージョには、世にでることなく死んでいった我が子への悲しみが込められている、と近年ロドリーゴは語っています。

小松 政明 (Vc.)



For School, Business or Pleasure
ア・ブ・ク・ド・イングリッシュ スクール
小学生から大人迄の英語専門教室
〒607 京津線 御陵駅 下車
徒歩 2分 協和荘301~302
TEL 075-593-4426

TEL 075-593-4426



近代オートメーション化(食品衛生優良店)
委託給食・行楽弁当・幕の内・折詰・仕出し

大都給食 株式会社

☎(075) 641-8286 FAX (075) 641-8699

京料理 大都

☎(075) 642-1500

京・伏見区深草川久保町8
(警察学校西隣)



ブラームス 作曲

「交響曲第2番ニ長調」 作品73

・・・えー、なんですか？ブラームスって誰だって？なぜそのようなことをお尋ねになるのですか？あー、演奏会にお出かけか。私もよくは知らんのぢゃが、ずいぶん昔のドイツの作曲家らしい。ここに音楽事典があるから調べて進ぜよう。うむ、なになに「1833年北ドイツのハンブルグに生まれ、1897年ウィーンで亡くなった」とありますな。当時は音楽の歴史でいうロマン派の時代でしてな、その中で彼は古典派の音楽を追求したといわれておる。え？マロン派ではない。ロマン派ぢゃ！ロマン派・古典派というのはぢゃ、音楽の表現の仕方をいうのぢゃよ。恋文の書き方に例えるところぢゃ。古典派なら「拝啓??様 突然のお便りで申し訳ありません。・・・」どうぢゃ、形式張っているぢゃろ。ぢゃがロマン派なら「好きだ好きだ大好きだ。あなたのことを想うと夜も寝られない。・・・」情熱的ぢゃろ。つまり、当時は形式の枠をはみだした情熱的な曲がはやりだったのぢゃが、彼は端正で理知的な曲を書いていたのぢゃよ。おわかりかな。それで何の曲をお聴きになるのかな？交響曲第2番といわれますとニ長調ですな。「ナントカ長調」とか「ナントカ短調」というのは音階の種類でして、曲の雰囲気を決めておるのぢゃよ。絵でいうと背景の色のようなもんぢゃ。ニ長調というのは明るい色で、年末恒例の「第九」の「喜びの歌」や有名な「ハレルヤ・コーラス」と同じ音階なのぢゃ。ブラームスは第1番の交響曲を書くのに20年以上かかったのぢゃが、これが大当たり。これでほっとしたのぢゃろうな。その後、オーストリアの美しい避暑地、ベルチャッハというところでこの曲をたった3カ月で書いたのぢゃよ。ニ長調の明るく楽しい交響曲をな。古典派の彼らしく、形式のしっかりした、手のこんだ仕掛けの多い曲ぢゃが、それをお気になさらずとも、流れるようなメロディーが美しいし、最後には大団円が用意されておる。おや、もうお出かけか？なに、楽しみになってきた？それは良かった。気をつけてな！・・・

越後のちりめん問屋の御隠居、光エ門

中国漢方 三ツ星薬局
中国鍼灸 三ツ星鍼灸院

京都市北区小山初音町61

(キタオオジタウンより西へ150m)

三ツ星薬局・三ツ星鍼灸院では中国で漢方医に学ぶなど、日々研鑽を重ねています。お気軽にご相談ください。

TEL 075(492)2367

御袈装 絡子の
お仕立に

京都、日吉町 吉野隆
TEL 0771(73)0193

パート紹介

ヴァイオリン *Violino*

--ヴァイオリンパートについて一言づつお願いします。

「ヴァイオリンパートを楽しくする会」っていうのがあります。...とは言ってもヴァイオリンパートが楽しくないからできたものではありません。(実は発足したことを知らなかった人がいた。)

それは私だ。(…そんなこと堂々と言わなくても…)

演奏で目立つから普段あまり目立ちたがらない我々(セカンドヴァイオリンは反対かもしれませんね。)

大所帯で、仲良く、かつ、ばらばらとヴァイオリンパートは生きています。聞き苦しいところには目をつぶり(耳をふさぎ?)、どうか美しいところを認めて、本日は楽しんで下さい。(ハート一同)

ヴィオラ *Viola*

《問い》. 次のうち、フィロムジカのヴィオラパートについて当てはまるものを3つ選びなさい。(順不同)

- a, 中音の魅力が渋くて素敵♥ b, 謎の一团 c, 目立たないよお
- d, 縁の下の力持ち的存在 e, あやしい音程 f, 存在するんですか?
- g, ヴィオラって何? h, やわらかく深みのある音 i, マニアック

《解説》

これは典型的なひっかけ問題である。つまり一般的な“ヴィオラ”だけで考えると選択を誤る可能性がある。“フィロムジカの”というところがポイントなのだ。だから今日の演奏会を聴かなければ解けないだろう。深い思考と洞察を要するかなり難易度の高い問題といえる。ゆえに正解は……?

(No. 01-15387)

チェロ *Violoncello*

チェロって、いろんな事ができるんです。伴奏もメロディーもたくさん出てきます。どっちも好きな僕にはたまりません。かなり高い音も出るし、かなり低い音も出ます。どちらも魅力的です。けど、男声程度の音の高さが中心かなあ。

ソロ用の曲もたくさん出ています。最近CMでよくやっているの、チェックしてみてください。

ただ1つ問題なのは、大きくて持ち運びにくいことです。これには、皆悩まされます。練習後、皆で晩飯をよく食べに行くのですが、その時はいつも難儀します(涙)

チェロって、本当に素晴らしい楽器です。皆さんが、この演奏会でその素晴らしさを少しでも味わってもらえると、嬉しいです。

by むう

コントラバス *Contrabasso*

低音がしっかりしているオーケストラは安定して聞けるという話がありますが私たちはどうでしょう?みんな精一杯がんばりますので宜しくお願いします。

(伊藤)

フルート・ピッコロ *Flauto e piccolo*

フルートは僕の最愛の恋人である。彼女とつきあい始めたのは、今から8年前、中学生になる直前であった。その時の、楽器屋で彼女を見つけた瞬間の胸の高揚は今でも忘れられない。中学に入ってオーケストラに入り、毎日のように彼女と会っていた時の楽しかったこと。2人で舞台上がって数え切れない程の思い出も作った。しかし大学に入った途端に僕は、ピア乃といい感じになったり、ヒシアマゾンが気になったりして、だんだん彼女と疎遠になっていった。そんな僕も1年前のある日、目が覚めた。ヒシアマゾンに有馬記念で5着と裏切られ、ピア乃にはバイエル60番以上とは思われていないことに気が付き、やっぱり僕には彼女しかいないのだ、と。今日が2人で上がる最後の舞台になるかもしれないが、僕は彼女に言いたい。「気まぐれな僕だったけど、今まで本当にありがとう。」

(ファピラスラフィン命♥)

オーボエ・イングリッシュホルン *Oboe e Corno inglese*

こんにちは、オーボエハートです。今回は、3人も出演&イングリッシュホルンも新登場するので、演奏はもちろん楽器にも注目して下さい。(岸)

クラリネット *Clarinetto*

ハンバカハーンと派手さはないものの、コクがあり、それでいて苦みも少々な演奏を目指し、日々努力(?)しているクラリネットハートです。

本日の演奏は大さん山さん()のフィロムジカオリジナルブレンドでございます。お味の方は、



といったところでしょうか。

品質につきましては万全を期しておりますが不都合がございましたも、ひとつおてやわらかに...♥

(山下)

ファゴット *Fagotto*

... He plays the FAGOTTO as a meditation. But those he plays often suspect. He doesn't play for money. He doesn't play for respect. He plays the FAGOTTO to find the answer. Though there would not be an answer ...

(Takayama)

Italian, French & German
STRINGS and BOWS
and other kinds of musical instruments



Amiciya
KYOTO SINCE 1945

アメリカヤ楽器店
〒603 京都市北区地下鉄北大路駅前
TEL 075(441)2341 FAX 075(414)0010

Flower and Coffee



阪急長岡天神駅前
Tel/Fax 075-951-0362

パート紹介

ホルン *Corno*

ホルンはカタツムリのような形をしています。

だからみなさん寒い日が苦手で、そんな日はおやすみです。

同様に塩分に弱く、汗の出る暑い日も苦手で、おやすみです。

じゃ、いつ練習するの？（涙）

（今日も孤独なホルン拭き～）

トランペット *Tromba*

「音色は演奏者の好みをよく現わす。オーケストラにあっては、フルートとトランペットの音色が、しばしば不思議なほど、そのオーケストラ全体の色彩をきめるものである。あるオーケストラの笛とラッハが明るく輝いた音色を持っている奏者がいれば、そのオーケストラ全体はいつも明るく響き、逆に重く渋い音色の場合は、がいしてそのオーケストラは地味な響きを持ち味にしているものだ。したがってある指揮者がオーケストラの前に立ったとき、彼の好みとオーケストラの持味とが合致しないときは、当然彼は、存分に腕をふるうわけにはいかなくなる。」

芥川也寸志著『音楽の基礎』岩波新書 1971 より引用
（遠藤）

トロンボーン *Trombone*

トロンボーンは、今回待望の2曲乗りを果たしました。第1回の時は2人しかいなかった団員も、今回は4人に倍増し、フィロムジカトロンボーンハートは第1期黄金時代を迎えようとしております。

さてそのトロンボーンですが、ブラームスの2番では最後の最後にとってもむつかしいフレーズが控えております。ハートのメンバー全員が音を外さずに乗り切ることができるのでしょうか？ぜひ、耳をすましてきいてあげてください。

芥川の曲でも、素晴らしいソロが控えております。ぜひ、トロンボーンの素晴らしさを体感し、かつオーケストラでトロンボーンは必要不可欠であり、最も重要な楽器の一つであることを理解してもらいたいと思います。
（名嘉原）

チューバ *Tuba*

あなたは、チューバという楽器に対してどういうイメージをお持ちですか。「えらい大きな楽器やなあ。」「ようこんな楽器を吹くな。並の体力ではもたんのとちゃうか。」

とおっしゃる方も多いかと思えます。しかし、こんな風に思われているからこそ、僕たちはチューバという楽器が大好きなのです。

さて、チューバがオーケストラで使われるようになったのは、比較的新しく、19世紀の後期ロマン派になってからのことでした。特に、交響曲に初めて登場したのが、今回演奏する『ブラームス、交響曲第2番』です。この曲の終楽章では、チューバがオーケストラ全体を引き連れて突っ走る場面があります。私としては、ここに注目してほしいと思っています。

それと、今回の演奏会では、2人のチューバ奏者が登場します。各々が、自分の持ち場でそれぞれの持ち味を出せたらいいなあと思っています。

(小島)

ティンパニ・打楽器 *Timpani e Strumenti a percussione*

私は、11月にこの楽団に入団したばかりです。その前は、バンドのドラムをしていました。その前はというと、吹奏楽をしていました。

あと足りないのは、ハーカスのメンバーでしょう。私ひとりなんです。みんな、太鼓をたたきましょう。

(河野)

事務局

太郎：事務局のハート紹介どうします？

花子：全体の雰囲気がわかればええんちゃう？

太郎：じゃ、共通点探しましょうか。

花子：出席率が悪い

太郎：それって印象悪いと思う……。 「楽器弾けない人の集団」とか？

花子：なんか、ネガティブね。 「団費払わない人の集団」……。

太郎：「オケの経験のない人の集団」……なんか「ないないづくし」ですね。

花子：それやんか！ 「何もないけどオケを愛している人の集団♥」

太郎：無理やりまとめましたね。

花子：事務局は「初心者にやさしく！」をモットーとしています。何もないけど何かしたいあなたのお力添えを心よりおまちしています♥

太郎：まる。おおっ思いがけず勧誘までできちゃいましたね。

花子：よかった、よかった。

(ももんがーの館)

世界の銘器を あなたののもとへ

あなたのパートナー選びは

ドルチェ楽器が お手伝いいたします。



株式会社ドルチェ楽器

〒530 大阪市北区茶屋町1-1 共信梅田ビル2・3F

Tel: 06-377-1117

☎フリーダイヤル 0120-755-700

営業時間：10:30am～7:30pm 定休日：毎週木曜日

芥川也寸志作曲：

「交響管弦楽のための音楽」

高山 (Fg.) この曲は全体的に単純すぎるところがかえって演奏しづらいですね。

遠藤 (Tp.) 確かに単純だが、それが芥川の特徴のひとつじゃないかな。芥川は後に同じ音形を繰り返すオスティナートという作曲技法を多用する。この曲は青年時代の作だけどもうその萌芽が見えているのかも。

ある Fl.奏者 でも1楽章はいろいろな楽器での掛け合いがあって面白いですね。

遠藤 (Tp.) 各楽器の音色や和音のほんのちょっとした音色の変化の妙味が実にうまく生かされている。自分の出す音がどんな効果を上げているのかよく解るから吹いていてとても楽しい。

高山 (Fg.) 僕は刻んでいるだけですけど、その分ほかの楽器の動きがよく解って面白いですね。

ある Vc.奏者 チェロも刻み中心ですが、刻むのも結構骨が折れるんですよ。

ある Vn.奏者 この楽章はスケルツォのような3部構成になっていますが、特にイングリッシュホルンが旋律を吹く中間部に注目してほしいです(譜例1)。西洋的ではない、日本的なものを感じます。

ある Fl.奏者 2楽章のテーマは華やかでいいですね(譜例2)。

遠藤 (Tp.) そうですね。でも僕としては、最初に金管が吹いたこの華やかなテーマが、楽章の途中でチェロとヴィオラによって演奏されるとずっと渋い感じに変わってしまうところに注目してほしいですね。楽器の音色がうまく生かされてますよ。

高山 (Fg.)、ある Vn.奏者 この楽章はリズムカルで楽しいですね。

ある Fl.奏者と Vc.奏者 2拍子のテーマと3拍子のリズムが混ざっているところがあったり変拍子があったりと、テンポをとるのが難しいですね。

ある Vn.奏者 2/4なのに6/8のような動きをしますからね。頭がふーっとなりますよ(笑)。

遠藤 (Tp.) 僕はこの曲を、音色の魅力を追求した第1楽章とリズムの魅力に満ちた第2楽章というイメージでとらえています。

ある Fl.奏者 私は二つの楽章に“静から動へ”という流れを感じます。ダイナミクスも1楽章はピアノ中心に対し2楽章はフォルテ中心です。

高山 (Fg.) いずれにしてもノリがいいところが結構好きです。

ある Vn.奏者 いつもと違う雰囲気を感じながら演奏できるので本当に楽しいです。



ロドリゴ作曲：

「アランフェス協奏曲」

高山 (Fg.) ギターの協奏曲というのは新鮮ですね。

ある Vn.奏者 最初のギターソロからして爽やかでいいですね(譜例 3)。でも爽やかさを表現するというのは難しいですね。はね弓やりズムをどのように生かしていけばいいか。

高山 (Fg.) 1 楽章ではギターとファゴットが重なるところがあって面白いです。

ある Vc.奏者 チェロにもギターのように刻むところがあるんですよ。今回は刻みが多い (笑)

ある Vn 奏者 それと、ミュート (弱音器) をつけたラッパの音、面白いですね。

ある Vc 奏者 1 楽章のチェロのソロは小野田さんが弾きます(譜例 4)。乞御期待！！

高山 (Fg.) 2 楽章はギターもかっこいいけどコーラアングレやファゴットなど木管にもソロがあっていいですよ(譜例 5)。

ある Vc.奏者 チェロにもメロディがでてきますね。いい響きで歌えるように頑張ります。

ある Vn.奏者 メロディがスペイン風の歌もいいですね。しかも構成も凝ってますよ。特に、ギターのカデンツァの後で、弦楽器のピッツィカートの一打ちに続いてギターがソロを弾くという動きを繰り返すところがあります。ここは聴かせどころです。

高山 (Fg.) 拍子が変わるのでリズムがとりにくくて難しい。

ある Vc.奏者 それに加えて休みも多いので数えるのが大変 (笑) でも変拍子とは思えないような端正な歌ですね(譜例 6)。

高山 (Fg.) 曲全体がスペインって感じがしてかっこいいですね。ノリがいい。

ある Vn.奏者 今日のプログラムでは「芥川→ロドリゴ→ブラームス」という流れの中間にあり微妙で面白いですね。

(譜例 3) Guitarra 

(譜例 4) v.c. 

(譜例 5) Corno inglese 

(譜例 6) Gitta. 

ブラームス作曲：

「交響曲第2番二長調」 作品73

高山 (Fg.) この曲の1楽章は静かに始まりますね。

長岡 (Hr.) この冒頭には、静かな中に重要な要素が入っている。最初のチェロとコントラバスの音形(譜例7)はこの後にも頻繁に出てくる。特に練習番号Gで金管が少しづつずらしながら吹くところは面白い(譜例8)。

津田 (Vn.) 3拍子で滔々と流れていくメロディが実に美しい。

あるVc.奏者 チェロがヴィオラよりも高い音でソロを歌うところがあります(譜例9)。おいしく弾けるように頑張ります。この曲は高い音が多くて、音が当たるか不安ですけど。

津田 (Vn.) Vnにも2オクターブにも及ぶ音程の跳躍があるんですよ。

高山 (Fg.) 木管は重なって出てくるので楽しいですね。でも休みが少ないので大変ですよ。

長岡 (Hr.) ホルンは連続した刻みが出てきて大変ですね(譜例10)。遅れないように頑張ります。

津田 (Vn.) その上を、小節の仕切りをはみ出してリズムが次から次へと連なっていくんですね。

小島 (Tub.) 展開部は激しく強奏させられる。かなり大変だ。しかし再現部を経てコーダは静かな美しさになる。特にホルンの長いソロの後の弦とホルンのアンサンブルは絶品だ。

高山 (Fg.)、あるVc.奏者 2楽章は冒頭のメロディを担当するのでやり甲斐があります(譜例11)。

津田 (Vn.) VcとVnが旋律の反行形を成すところもいいですね。

小島 (Tub.) 高い音を小さく吹かされる所があって難しい楽章だ。

高山 (Fg.) リズムが取りにくいですね。

津田 (Vn.) 三連符と八分音符が交錯し、3:2のリズムが重層構造を成す。調性の変化も凄い。調性が嵐のように変化し、臨時記号も多くなる口短調の中間部は演奏も大変だ。

長岡 (Hr.) 3楽章は3/4拍子で始まりますが、途中で拍子が様々に変化する面白さがあります。特に2/4拍子から3/4拍子に戻る部分はいいですね。入るタイミングは結構難しいけど。

津田 (Vn.) オーボエやフルートのソロがいいですね(譜例12)。

あるVc.奏者 木管にあわせてピッツィカートをするのは楽しいですよ。

津田 (Vn.) はるかなる田園風景を見るような最後のフェルマータ。素晴らしい。

小島 (Tub.) 4楽章は大変な楽章だ。オクターブの跳躍が多数出てくる。

あるVc.奏者 音の上がり下がりが激しくて大変です。

高山 (Fg.) もう無我夢中ですね。

津田 (Vn.) Vnは“休止の後、突如高い音程から降下”を繰り返すところがあり大変です。しかしいい曲ですよ。なんといっても第2主題!!! (譜例13)

長岡 (Hr.) 練習番号P以降の盛り上がりは凄いですね。


小島 (Tub.) コーダではチューバがオーケストラ全体を圧倒する所がある。是非注目してほしい。

津田 (Vn.) この部分ではトロンボーンをはじめとする金管の響きが輝かしいですね。
(譜例 14)

ある Vc 奏者 曲全体を通して、楽譜を見ながら聴くと、変な所に拍の頭があって驚きます。

津田 (Vn.) 弾いてみて初めてわかるこの曲の難しさ。

長岡 (Hr.) しかしなんといっても明るい曲ですよ。この明るさを大切に楽しく演奏したいと思っています。

(譜例 7) Vlc. eCb. 

(譜例 8) Cor. 

Trb. 

(譜例 9) Vla. *cantando* 

Vlc. *cantando* 

(譜例 10) Cor. 

(譜例 11) Fagotti I. II *a2* 

Violoncello *poco f. espress.* 

(譜例 12) Oboi I. II 

(譜例 13) VI. I *mp* *arco* *largamente* 

(譜例 14) Trb. 

Trb. e Btb. 

京都フィロムジカ管弦楽団スタッフ

顧問	和田 之宏
代表	小林 香
コンサートミストレス	井上 史
コンサートマスター (1曲目)	村山 義尚

コンサートスタッフ

チーフ	政岡 潤平
ステージマネージャー	隈部 洋平
	木下 洋輔
パンフレット	遠藤 啓輔
パンフレットワープロ	木下 洋輔
広告	伊吹 勇亮
チケット	酒匂 美奈子
	若林 稔
デザイン	高山 泉
宣伝	村山 義尚
	河野 美代子
受付	野口 彩子
庶務	平本 知子
	高見 真己
録音・録画	堀越 三津弘
写真	津田 篤太郎

事務局

事務局長	松永 淳
財政	高田 志保
ライブラリアン	小又 雄一郎
会場	名嘉原 忠博
宣伝・広告	村山 義尚
	河野 美代子
	奥村 繁海
	河本 紗代子
	堀越 三津弘
機関誌・楽団史	上田 浩之
	井上 あゆみ
	村上 直
合宿	村上 明日香
ホール	長岡 武志
渉外	安田 博子

演奏委員会

井上 史	伊藤 文詔	前田 暢
吉野 仁子	井上 裕子	上田 浩之
小野田 税	高山 泉	河野 美代子

印刷所 大地社

土木建設工事設計施工

株式会社 山下組

〒606 京都市左京区岩倉三宅町251の4
TEL (075) 711 - 3586
FAX (075) 791 - 6040

団員表

<i>Violini</i>	田畑 佳子 (客演)	谷口 理保 (客演)	長尾 太郎
浅利 雅子	吉野 美穂 (団友)	昌山 淳一 (客演)	長岡 武志
石原 恵子			藤原 義和
井上 あゆみ	<i>Viola</i>	<i>Flauti e Piccoli</i>	前田 暢
井上 史	○西川 直哉	逸見 正憲	
井上 理恵	伊藤 寛 (団友)	井上 まこと	<i>Trombe</i>
○上田 松子	篠崎 淳 (団友)	井上 裕子	○上田 浩之
上村 宏樹	井上 由香 (客演)	○隈部 洋平	遠藤 啓輔
岡本 有加	川口 陽子 (客演)	酒匂 美奈子	小林 香
川端 さとみ	船越 さくら (客演)	畠山 泉	村上 明日香
北村 典子	元吉 優子 (客演)	政岡 潤平	渡辺 美智子
国分 貴之	横山 智昭 (客演)	松村 朋美	
小間 敦世	吉岡 秀和 (客演)		<i>Tromboni</i>
高見 真己		<i>Oboi</i>	川原 靖弘
津田 和子	<i>Violoncelli</i>	○岸 さやか	坂本 倫子
津田 篤太郎	○小野田 税	香野 友美 (団友)	中井 貴信
長坂 絵理子	久保田 真紀	中 良子 (団友)	○名嘉原 忠博
中山 晶子	小松 正明		<i>Tube</i>
野口 彩子	中村 郁哉	<i>Clarineti</i>	○小島 忠司
藤井 伸哉	村上 直	秋野 希和子	坪内 大輔
宮下 康子	岩本 哲治 (団友)	大藪 浩一	
村山 義尚	田中 宗利 (団友)	佐藤 郁子	<i>Timpani</i>
吉野 仁子	徳永 裕己 (団友)	○山下 由美子	○河野 美代子
若林 稔	中野 弥生 (団友)		
五十嵐 満美子	山本 崇 (団友)	<i>Fagotti</i>	
(団友)	山岡 真弓 (客演)	○高山 泉	<i>Strumenti a</i>
遠藤 千尋 (団友)		中口 佳子	<i>percussione</i>
小倉 博 (団友)	<i>Contrabassi</i>	永井 華代 (団友)	神田 信治 (客演)
笠 真悟 (団友)	○伊藤 文詔		大八木亮平 (団友)
斉藤 佳代 (団友)	安田 博子	<i>Corni</i>	武田 大蔵 (団友)
高橋 太郎 (団友)	吉本 政弘	芦原 俊平	
田中 あゆみ (団友)	石川 大介 (客演)	木下 高好	<i>Pianoforte</i>
辻 由希子 (団友)	板根 由子 (客演)	○木下 洋輔	大西 真理子 (客演)
中島 義和 (団友)	小林 祥子 (客演)	小又 雄一郎	

○・・・パートリーダー

謝辞

当団の活動に多大な御支援を下さいました高瀬博章様、浜本香代子様
御二方にこの場を借りて御礼申し上げます。



次回定期演奏会のお知らせ

京都フィロムジカ管弦楽団

第3回定期演奏会

1997年11月22日(土)

於 京都府長岡京記念文化会館

新入団員募集中

募集パート：弦楽器全般，オーボエ，クラリネット，ファゴット，打楽器

連絡先：075-451-3210（村山），075-721-1832（小林）